

～東京一 明るい笑顔のあふれる学校を目指して～

教 育 目 標

- 一、 からだをつくる
- 一、 心をみがく
- 一、 わざを練る

【学校経営にあたり】

校長 江原 賢一

学習指導要領には、子供たちの「生きる力」をいっそう育むことを目指し、一層の「知・徳・体」のバランスが取れた力を身に付けることを目的とすることが記述されています。

今を生きる子供たちは、日々大きく、急激に変化をし続ける社会環境、また教育環境の中で、多くの情報を整理、取捨選択をする能力が求められています。そのための、様々な対応に追われ生活をしていることも周知の事実です。このような時代を生きるためには、自分自身を保持するためのたくましい心や揺るぐことのない強い姿勢が求められています。

私は、その育成に1番重要な要素として、心の教育である「徳育」を挙げさせていただきます。「徳育」とは人として生きる心構えを探る教育だと思います。生活の土台を支える知識・技能の保持、健康管理や体力作りのなど中学生の時期は学ばなくてはならない基礎・基本がたくさんあります。そしてそれらを自らが考え、判断できる逞しい心の育成がこの時期不可欠です。不変の社会常識や規範意識を持ち、生きる意欲を持ち、自ら考え、行動し、表現できる「徳・知・体」のバランスが取れた、心ある生徒を本校では育てていきたいと思えます。その中で子供たちが自分というものを確立していければそれが最高の教育と考えます。教育とは読んで字のごとく「教え、育てる」ことです。

人は心で動きます。自らの学力を身に付けることも、体力を向上させることも「やらねばならぬ」「やってみよう」という強い気持ちや姿勢が個々を伸ばし、生きる力を蓄えさせます。これらを踏まえ、「逞しく生きる心の育成」を目指していきたいと考えます。本校の教育方針は、

- 1 「生き方に本気で、賢く、逞しく生活に取り組むことができる生徒」の育成
- 2 「生きることに感謝できる気持ちを大切にさせ、謙虚な姿勢をもち生活できる生徒」の育成
- 3 「感動を伴う、感性を磨く教育」の推進

目指す学校像は、

～ 生徒の「笑顔」を生み出す学校 ～

- (1) 真面目に、真剣に、前向きに努力をする生徒が、楽しく生活を送ることができる学校
- (2) 生徒ひとり一人が、様々な学校生活の場面で感動を味わうことができる学校
- (3) 生きる目標を明確に持ち、それに向かい、一生懸命努力する生徒が育つ学校
- (4) 生徒の可能性を伸ばすために、教職員の個性が一つになり、組織として機能する学校

です。中野第八中学校は今年度、70周年を迎えます。長きにわたる伝統に培われた校風を大切に、地域とともに歩む「東京一 明るい笑顔の溢れる学校」を目指していきます。

2. 【目指す生徒像】

～ 現実と向き合い 逞しく生きる生徒 ～

- (1) 礼儀正しく、思いやりを持ち、励まし、互いに鍛えあう心を持つ生徒
- (2) 何事にも積極的に学ぶ姿勢を持ち、生きるための基礎・基本を身につけた生徒
- (3) たくましく生きる姿勢と、情緒豊かな感性を持つ生徒

3. 【目指す教師像】

～ 生徒と真剣に向き合うことのできる先生 ～

- (1) 教育者としての使命感を持ち、教科・領域・その他の指導力の向上を目指す教師
- (2) 全生徒が安心して通学・生活できる学校を提供できる教師
- (3) 正しいと思う見通しを持ち、生徒への熱くそして冷静な指導努力を惜しまない教師
- (4) 生徒に感動を与えることができる教師

4. 【教育目標達成のための重点】

(1) 学習指導（各教科）

○分かる授業の工夫と自ら学ぶ力の育成

- ・授業の導入時において、必ず一単位時間内のねらいを様々な手法を用い明確に示すことを行う。同様に、展開時や終了時においても本日のねらいを常に確認させる。それらの徹底を繰り返すことで、本授業内容の目的を知らしめ、ひいては分かることの楽しさを会得させる。
- ・学習習慣の確立は、基礎学力の向上に繋がる。その日に何を学んだのかを理解させるために、具体的な方策を工夫し、示し、家庭学習の意欲的な取り組みを推進させる。また主体的に学ぶ力を育てるために教師は、様々な指導改善を行い学習の楽しさを知らしめ、生徒の学ぶ意欲を生み出していく。

(2) 生活指導

○規範意識の向上と挨拶、正しい言葉づかいの徹底

- ・人がお互いを信頼し、安心をして生活ができる基本は、社会のルールやマナーの遵守である。それらの社会性を身に付けさせ、規範の尊重を図る指導を行う。
- ・「挨拶は生活の基本である」を徹底する。全教職員が、校内生活（朝・帰りの学活時、授業、給食の開始、終了時、部活動など）の全てにおいて率先しその大切さを伝え、生徒の自発行動を促す。また、正しい言葉づかいも同様に徹底を図り、生徒が礼儀をわきまえ、感謝の気持ちを伝えられる指導を徹底する。
- ・真剣に授業に向き合う姿勢を育くむために、教員と生徒がともに授業の開始、終了時間厳守の気持ちをもつ。

(3) 道徳

○人としての在り方、生き方を自ら表現できる力を育成すると同時に、情緒豊かな感性を育てる

- ・道徳の時間を通して、「豊かな心」の基本となる、人としての生き方を繰り返し指導する。キーワードは「心情」「判断力」「実践力」そしてその育成を図る。具体的には、暖かさが感じられる思いやりの心、規範を守るなどの正義感や公正を重んじる心、伝統・文化を尊重する心などを育成する。
- ・各教科においても生き方教育の充実を図る。特に、実技教科においては感性の教育を重点とする。
- ・社会生活を営む上で、道徳的価値観の保持、そしてそれを踏まえた実践力が大切なことであるということに気づかせ、思考力・判断力・表現力を育てていく。

(4) 進路指導・特別活動・部活動

○自立を促す行動力の育成

- ・総合的な学習の時間や特別活動の時間を中心とし、成長過程に沿ったキャリア教育を推進する。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせるために、地域行事、地域ボランティア活動への積極的な参加を促す指導を行う。
- ・自己肯定感を養わせるために、学校行事、学年、学級行事などへ積極的に参加をするように仕向け、自らの活動に責任と誇りを持たせる。その中でお互いが真剣に、協力・参画する態度や励まし合う気持ちを育てる。

(5) 健康教育

○逞しい心とからだの育成を図る

- ・保健体育や食育教育、道徳教育を通して、心とからだの健康保持を図り、自らの健康状態を知る努力をさせ、社会に出て厳しさに耐えうる逞しい心づくりをする。
- ・毎時間実施される保健体育の実技や部活動を通して、強い体づくりを行う。

(6) 小中連携教育の推進

○安心して通える学校を目指すため、地域3小学校との連携強化を図る

- ・小学校と連携し学習活動の推進（各教科・領域の活用、連携行事）を行い、継続した学習の大切さを学ばせる。
- ・3小学校と生活指導連携や教育相談連携などを学校間レベルで行い、連携担当者による連絡がスムーズに行えるような体制を整える。

「生徒を育てる教職員としてのあり方」

～教育のプロフェッショナルとしての自負～

- (1) 教育公務員としての自らの職務への専念とサービスの厳正を図り、自らの行動をしっかりと管理してください。自分の力を信じる事は大切ですが、それに満足せず、過信せず、常に危機感と向上心を持ち、自らのレベルアップを図ってください。
- (2) 教員としてではなく、教師として、人として尊敬されてください。生徒たちとたくさん触れ合い、そして寄り添い、生徒個々の心をしっかりと見つめてあげてください。正確に一人ひとりを見抜く力を持つことも必要です。生徒たちの人権を尊重することは当然です。その上で、正面から生徒と向き合いきましょう。そして生徒たちに、「自分は人としてこう思う。」という姿勢を見せてあげてください。そこでは先生方の個性を出してください。また、我々の間違いを素直に認めることも大切です。もし間違えたら言い訳をせず、取り繕うことなく詫げればいいのです。このときは生徒と教師の枠を外しても構わないと考えます。生徒は教師の心を読み取ります。何事にもおだてる必要はありません。心を込め、叱るときはきちんと叱り、褒めるときは心から褒めてあげてください。生徒の問題行動に対しては、情にほだされず、起こしてしまったことに対しては厳しく叱りましょう。ただしその行為に至る心情を理解することは心がけてください。
- (3) お互いが指導技術を積極的に磨き合い、切磋琢磨し、分かる授業を行うために授業改善をしていきましょう。分かる授業が、学習意欲を生み出します。それが成果となり結果に表れます。教師の成長が、生徒の成長です。

- (4) 教職員が協力し、支えあう組織体、チームを作りましょう。その中で、レベルの高い「和」と「輪」作りを目指しましょう。教育において建設的な意見を論議するなどお互いに本音でものが言い合える関係作りをしていきましょう。方向性が同一なら難なくできるはずです。
- (5) 「自らの身だしなみも生徒指導の一つである。」と、心しましょう。特に、学校行事にてお客様(保護者、地域の方々、教育関係者他)を迎える時、校外での研究発表会、研修会などに出席、参加をする場合、入学式、卒業式はもとより、始業式や終業式、修了式などの儀式時は自らの姿も正すことが、生徒指導につながります。当然通勤時、授業時その場面にふさわしくすることが大切です。
- (6) 教師の仕事は自ら指導をする教科の力を、どれだけ生徒につけさせることができるかです。授業型には習得・活用型授業や教授型授業、授業形態には、集団学習方式・個別学習方式・個人指導・TTなど様々な形態があります。しかし、大事なのは生徒たちを、いかに真剣に、前向きに授業に集中させるかにあります。それには子どもの心を引きつけなくてはなりません。そのために教科の専門性の保持はもちろんですが、生徒との授業以外での様々な場所や場面での触れ合いも有効な手段です。効果的な指導を行うために、人として尊敬されること、生き方指導ができることが大事です。それが必ず教科指導にも生きてきます。
- (7) 成り行きでの成長を期待したり、それ故の成果を喜ぶことは決してあってはならないことだと考えます。生徒を成長させるために仕向けをしてあげることが大事です。学校教育は偶然性ではなく必然性が基本であり、それが私たちの喜びであると考えます
- (8) 「生徒のために何ができるか、何をしてあげられるのか」を常に考え、自らの能力を出し惜しみすることなく、持ち味を十二分に発揮し、やれることは遠慮をしないで実践していく教師、職員でありましょう。

※ これらのことを全力でやっていただいた上での課題発生は、責任者である校長が取らせてもらいます。